

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月5日

上場会社名 ゼリア新薬工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4559 URL <http://www.zeria.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊部 幸顕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役広報部長

(氏名) 森山 茂

TEL 03-3661-1039

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	37,968	6.2	1,411	30.0	1,437	35.2	752	△13.1
21年3月期第3四半期	35,761	—	1,085	—	1,063	—	866	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	18.19	—
21年3月期第3四半期	20.79	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	70,783	27,311	38.6	660.20
21年3月期	58,110	27,711	47.7	669.72

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 27,311百万円 21年3月期 27,711百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
22年3月期	—	8.00	—		
22年3月期(予想)				8.00	16.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,000	11.2	2,000	51.0	2,000	46.4	1,200	△0.3	29.01

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他の(2)をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 48,290,173株 21年3月期 48,290,173株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 6,921,836株 21年3月期 6,911,782株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 41,372,627株 21年3月期第3四半期 41,655,632株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 連結業績予想につきましては、平成21年11月11日発表の数値を変更しておりません。なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済情勢等様々な要因により記載の予想数値とは異なる場合があります。

2. 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来百万円単位にて記載しておりましたが、当連結会計年度より千円単位にて記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前第3四半期及び前連結会計年度につきましても、千円単位に変更しております。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第 3 四半期までのわが国経済は、緩やかに持ち直しつつあるものの、企業収益は低水準に止まっており、失業率の悪化や設備投資の減少、個人消費の低迷など、依然として厳しい状況が続いております。

医療用医薬品業界におきましては、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進などの医療費抑制策が引き続き推進されており、また OTC 医薬品（一般用医薬品）市場におきましても、景気低迷による個人消費の伸び悩みなどから、ともに厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況の中、医療用医薬品部門におきましては、最重点領域と位置付けております消化器官用薬に営業力を一層注力し、市場拡大に努めてまいりました。その結果、亜鉛含有胃潰瘍治療剤「プロマック<sup>®</sup>」は、市場浸透が進み売上は堅調に推移いたしました。しかし、H<sub>2</sub> 受容体拮抗剤「アシノン<sup>®</sup>」、胃炎・潰瘍治療剤「マーズレン<sup>®</sup>」などの製品は、市場競争の激化や後発医薬品（ジェネリック医薬品）の浸透の影響を受けて苦戦いたしました。なお、潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール<sup>®</sup>」につきましては、平成 21 年 10 月に製造販売承認を取得し、12 月より販売を開始いたしました。また、協和発酵キリン株式会社との「アサコール<sup>®</sup>」に関する共同開発および共同販売契約に伴う契約金収入を当部門に売上計上しております。これらの結果、部門全体としては売上を拡大いたしました。

一方、コンシューマーヘルスケア部門におきましては、テレビCMの効果等もあり、主力製品群である「コンドロイチン群」が売上を拡大いたしました。また「コンドロイチン群」に続き、滋養強壮剤「ヘパリーゼ<sup>®</sup>群」においても平成 21 年 11 月から関東地区にてテレビCMを開始し、製品認知度の一層の向上に努めた結果、売上を拡大いたしました。さらには、植物性便秘薬「ウィズワン<sup>®</sup>群」も順調に推移いたしました。これらの結果、部門全体としては売上を拡大いたしました。

以上の結果、当第 3 四半期連結累計期間の売上高は 379 億 68 百万円（前年同四半期比 6.2%増）となりました。一方、利益につきましては、営業利益 14 億 11 百万円（前年同四半期比 30.0%増）、経常利益 14 億 37 百万円（前年同四半期比 35.2%増）、四半期純利益 7 億 52 百万円（前年同四半期比 13.1%減）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 資産、負債及び純資産の状況について

当第 3 四半期連結会計期間末の総資産は 707 億 83 百万円となり、前連結会計年度末対比 126 億 73 百万円の増加となりました。その内訳は流動資産が 272 億 82 百万円で、前連結会計年度末対比 24 億 54 百万円の増加、固定資産が 435 億 1 百万円で、102 億 19 百万円の増加となっております。資産の部の増減の主なものは、流動資産におきましては、現金及び預金の増加 3 億 33 百万円、受取手形及び売掛金の増加 19 億 57 百万円、商品及び製品等のたな卸資産の増加 7 億 67 百万円であります。また、固定資産におきましては、有形固定資産の増加 6 億 96 百万円、後述の Tillotts Pharma AG の連結開始に伴うのれんの発生等による無形固定資産の増加 101 億 36 百万円、投資その他の資産の減少 6 億 12 百万円であります。

当第 3 四半期連結会計期間末の負債合計は 434 億 72 百万円となり、前連結会計年度末対比 130 億 74 百万円の増加となりました。その増減の主なものは、支払手形及び買掛金の増加 2 億 97 百万円、短期借入金の増加 133 億 6 百万円、長期借入金の減少 15 億 17 百万円等であります。

当第 3 四半期連結会計期間末の純資産は 273 億 11 百万円となり、前連結会計年度末対比 4 億円の減少となりました。これはその他有価証券評価差額金の減少 4 億 81 百万円等によるものであります。この結果、当第 3 四半期連結会計期間末の自己資本比率は前連結会計年度末と比べ 9.1%低下し、38.6%となりました。

なお、Tillotts Pharma AG の連結にあたりましては、同社の第 3 四半期末である平成 21 年 9 月 30 日をみなし取得日としており、同社の決算日（12 月 31 日）と連結決算日（3 月 31 日）との差異が 3 ヶ月を超えないため、当第 3 四半期連結会計期間においては、同社のみなし取得日の貸借対照表のみを連結しております。

(2) キャッシュ・フローについて

当第 3 四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、期首残高対比 3 億 43 百万円増加し、30 億 14 百万円となりました(前年同四半期比 3 億 68 百万円増)。これは、投資活動によるキャッシュ・フローが 139 億 17 百万円のマイナスであったものの、営業活動によるキャッシュ・フローが 32 億 26 百万円、財務活動によるキャッシュ・フローが 110 億 34 百万円のプラスであったためであります。

当第 3 四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

< 営業活動によるキャッシュ・フロー >

当第 3 四半期連結累計期間は 32 億 26 百万円の資金の増加となりました(前年同四半期比 46 億 51 百万円増)。これは、税金等調整前四半期純利益の計上 12 億 88 百万円、減価償却費の計上 17 億 22 百万円、賞与引当金の減少 4 億 65 百万円、売上債権の増加 5 億 92 百万円、前渡金の減少 10 億 28 百万円、前払年金費用の減少 2 億 25 百万円、法人税等の支払 5 億 16 百万円等によるものであります。

< 投資活動によるキャッシュ・フロー >

当第 3 四半期連結累計期間は 139 億 17 百万円の資金の減少となりました(前年同四半期比 114 億 62 百万円減)。これは、有形固定資産の取得による支出 13 億 62 百万円、無形固定資産の取得による支出 1 億 42 百万円、投資有価証券の取得による支出 10 億 41 百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入 3 億 44 百万円、新規連結子会社株式の取得による支出 116 億 80 百万円等によるものであります。

< 財務活動によるキャッシュ・フロー >

当第 3 四半期連結累計期間は 110 億 34 百万円の資金の増加となりました(前年同四半期比 68 億 60 百万円増)。これは、短期借入金の増加 133 億 55 百万円、長期借入れによる収入 6 億 58 百万円、長期借入金の返済による支出 22 億 24 百万円、社債の償還による支出 1 億円、配当金の支払 6 億 44 百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く厳しい経営環境は今後も継続するものと考えられますが、このような中、当第 3 四半期までの連結業績はほぼ計画通りに推移しております。第 4 四半期につきましても、平成 21 年 12 月に発売いたしました潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール<sup>®</sup>」の市場浸透や、「コンドロイチン群」、「ヘパリーゼ<sup>®</sup>群」の売上拡大も見込まれることから、平成 21 年 11 月 11 日発表の通期業績予想を変更しておりません。

#### 4. その他

##### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

##### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

###### ア. 簡便な会計処理

###### ① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第 3 四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して一般債権に係る貸倒見積高を算定しております。

###### ② たな卸資産の評価方法

当第 3 四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸しを省略し、当第 2 四半期連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

###### ③ 有形固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している有形固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

###### ④ 繰延税金資産の回収可能性の判断

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

###### イ. 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理

###### 税金費用の計算

税金費用については、当第 3 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

##### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

###### [表示方法の変更]

###### (四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第 3 四半期連結累計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました前渡金の増減額（前第 3 四半期連結累計期間 △494,075 千円）は、当第 3 四半期連結累計期間においては金額の重要性が増したため、「前渡金の増減額」として独立掲記しております。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,146,260	2,812,769
受取手形及び売掛金	14,317,070	12,359,214
商品及び製品	3,520,043	3,189,441
仕掛品	563,245	500,839
原材料及び貯蔵品	2,434,351	2,059,577
その他	3,345,125	3,942,697
貸倒引当金	△43,812	△36,287
流動資産合計	27,282,284	24,828,252
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	6,289,687	6,263,653
土地	10,824,124	10,082,255
その他（純額）	3,474,015	3,545,610
有形固定資産合計	20,587,828	19,891,518
無形固定資産		
のれん	10,340,391	—
その他	1,460,444	1,664,693
無形固定資産合計	11,800,835	1,664,693
投資その他の資産		
投資有価証券	5,718,701	5,660,392
その他	5,473,445	6,165,401
貸倒引当金	△79,249	△100,112
投資その他の資産合計	11,112,897	11,725,682
固定資産合計	43,501,561	33,281,895
資産合計	70,783,845	58,110,147
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,264,298	4,966,451
短期借入金	26,186,933	12,880,080
1年内償還予定の社債	1,200,000	200,000
未払法人税等	436,086	264,950
賞与引当金	440,875	827,018
返品調整引当金	190,753	186,086
売上割戻引当金	255,003	235,644
その他	3,150,853	2,276,242
流動負債合計	37,124,805	21,836,473
固定負債		
社債	1,500,000	2,600,000

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
長期借入金	3,831,546	5,349,395
退職給付引当金	183,575	168,437
その他	832,678	443,847
固定負債合計	6,347,800	8,561,680
負債合計	43,472,605	30,398,153
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593,398	6,593,398
資本剰余金	5,414,745	5,414,745
利益剰余金	24,268,377	24,177,680
自己株式	△7,288,342	△7,278,135
株主資本合計	28,988,179	28,907,689
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,676,939	△1,195,695
評価・換算差額等合計	△1,676,939	△1,195,695
純資産合計	27,311,240	27,711,993
負債純資産合計	70,783,845	58,110,147

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	35,761,029	37,968,751
売上原価	16,386,411	17,288,211
売上総利益	19,374,617	20,680,539
返品調整引当金戻入額	181,167	186,086
返品調整引当金繰入額	213,548	190,753
差引売上総利益	19,342,236	20,675,872
販売費及び一般管理費	18,256,715	19,264,529
営業利益	1,085,521	1,411,342
営業外収益		
受取利息	3,311	1,460
受取配当金	171,926	182,065
その他	88,309	102,669
営業外収益合計	263,547	286,195
営業外費用		
支払利息	196,741	195,415
その他	88,927	64,526
営業外費用合計	285,669	259,942
経常利益	1,063,399	1,437,595
特別利益		
投資有価証券売却益	156,528	38,682
退職給付信託設定益	301,975	—
受取補償金	—	30,987
受取和解金	—	40,000
貸倒引当金戻入額	—	3,586
特別利益合計	458,504	113,256
特別損失		
固定資産除却損	25,956	8,336
投資有価証券売却損	32	—
投資有価証券評価損	—	169,167
買収調査費用	—	84,788
特別損失合計	25,989	262,292
税金等調整前四半期純利益	1,495,914	1,288,559
法人税等	629,821	535,871
四半期純利益	866,093	752,687



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,495,914	1,288,559
減価償却費	1,652,380	1,722,381
賞与引当金の増減額(△は減少)	△546,823	△465,691
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△415,998	15,138
退職給付信託有価証券の設定額	562,691	—
退職給付信託設定損益(△は益)	△301,975	—
受取利息及び受取配当金	△175,238	△183,526
支払利息	196,741	195,415
投資有価証券売却損益(△は益)	△156,495	△38,682
売上債権の増減額(△は増加)	△510,362	△592,969
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,073,483	△24,201
仕入債務の増減額(△は減少)	△640,973	55,365
前渡金の増減額(△は増加)	—	1,028,732
前払年金費用の増減額(△は増加)	△153,980	225,166
その他	△337,370	530,163
小計	△404,974	3,755,851
利息及び配当金の受取額	175,312	181,458
利息の支払額	△200,033	△195,152
法人税等の支払額	△996,109	△516,107
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,425,804	3,226,050
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△290,868	△1,362,075
無形固定資産の取得による支出	△310,934	△142,428
投資有価証券の取得による支出	△2,082,445	△1,041,802
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,203,725	344,240
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△857,624	△11,680,658
その他	△116,767	△34,429
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,454,914	△13,917,153
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	6,425,100	13,355,345
長期借入れによる収入	—	658,000
長期借入金の返済による支出	△1,465,916	△2,224,341
社債の償還による支出	△100,000	△100,000
自己株式の取得による支出	△27,647	△10,206
配当金の支払額	△657,742	△644,217
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,173,793	11,034,580
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	293,074	343,477
現金及び現金同等物の期首残高	2,352,131	2,670,679
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,645,205	3,014,156

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第 3 四半期連結累計期間（自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 20 年 12 月 31 日）及び当第 3 四半期連結累計期間（自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 21 年 12 月 31 日）

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める医薬品事業の割合がいずれも 90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第 3 四半期連結累計期間（自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 20 年 12 月 31 日）

在外連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

当第 3 四半期連結累計期間（自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 21 年 12 月 31 日）

全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が 90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第 3 四半期連結累計期間（自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 20 年 12 月 31 日）及び当第 3 四半期連結累計期間（自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 21 年 12 月 31 日）

海外売上高は連結売上高の 10%未満のため、その記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 6. その他の情報

生産、受注及び販売の状況

## (1) 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	25,958,773	7.3
(1) 医療用医薬品部門	11,446,887	△2.7
(2) コンシューマーヘルスケア部門	14,511,885	16.9
その他事業	—	—
合計	25,958,773	7.3

(注) 1. 金額は正味販売価格換算で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

## (2) 受注実績

当社グループは販売計画並びに生産計画に基づいて生産を行っており、受注生産は行っておりません。

## (3) 商品仕入実績

当第3四半期連結累計期間における商品仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	8,172,759	△3.1
(1) 医療用医薬品部門	6,909,492	4.8
(2) コンシューマーヘルスケア部門	1,263,267	△31.4
その他事業	—	—
合計	8,172,759	△3.1

(注) 1. 金額は実際仕入額で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

## (4) 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	37,817,313	6.1
(1) 医療用医薬品部門	22,641,882	3.0
(2) コンシューマーヘルスケア部門	15,175,430	11.2
その他事業	151,438	19.8
合計	37,968,751	6.2

(注) 金額は消費税等抜きで表示しております。

(補足資料)

## 新薬パイプラインの状況

## I. 国内開発状況

## 1) 消化器系分野

(平成22年2月5日現在)

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
フェーズⅢ	Z-206/ メサラジン	共同開発 (協和発酵キリン)	クローン病	pH依存型放出調整剤	導入 アサコール効能追加
	Z-103/ ボラプレジンク	自社	味覚障害	亜鉛補充	導入 プロマック効能追加
	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズI/II	Z-208/ タミバロテン	共同開発 (テムリック)	肝細胞癌	レチノイン酸RAR $\alpha$ 受容体作動作用	導入

## 2) その他の分野

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
フェーズⅢ 追加試験	Z-100	自社	子宮頸癌	免疫調節作用	自社オリジナル アンサー効能追加
フェーズI	Z-207	自社	アレルギー性鼻炎	粘膜組織凝固・収縮作用 エタノール・ステロイド配合剤	導入
開発準備中	Z-521	自社	低リン血症性くる病	リン酸補充	自社オリジナル 未承認薬開発支援対象

## II. 海外開発状況

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
承認 (韓国)	Z-103/ ボラプレジンク	導出 (SK Chemicals)	胃炎・胃潰瘍	胃粘膜保護作用	導入
フェーズⅢ準備中 (欧州)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズⅡ (北米)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズⅡ準備中 (欧州)	Z-360	自社	膵臓癌	ガストリンCCK <sub>2</sub> 受容体拮抗作用	自社オリジナル